

伝法駅(阪神なんば線)②

かつての大坂の海の玄関を訪ねて



「大阪あそび歩マップ集」
その1 No.006

阪神伝法駅

①西念寺

伝法山西念寺は、天竺の南山道宥律師の教伝により法道仙人が大化元年(645)に仏法伝道の道場として興したとされています。鎌倉末には仏教諸宗兼学の寺となり摂河泉の三国の四大本山として栄えました。日本三大船祭りのひとつだった「流灌頂・川施餓鬼」を残しています。

②庚申堂

かつて愛宕神社にありましたが、愛宕神社が漂標住吉神社に合祀されることになり、地元の要望で庚申堂だけが残りました。庚申の日に身を慎むと長寿がかなうという民間信仰が盛んでした。この庚申堂にも申の彫刻が施されています。

③伝法水門

昔の伝法川の河口です。伝法川は正蓮寺川から分岐して大阪湾に流れていました。明治6年(1873)、淀川の改良工事にともなうって水位を調節する伝法閘門が完成しましたが、その後工業化の進展で地盤沈下が激しくなり、昭和39年(1964)に水門に替わりました。いまでは伝法漁港の淀川への出入り口になって、漁港を守る水門になっています。



④伝法漁港

伝法は大阪市内にある漁港として代表的なところで、大阪市漁業協同組合もここに 있습니다。100名近い漁師さんが大阪湾や淀川で漁をして、毎日、中央卸売市場に卸しています。

⑤伝法川跡碑

安治川が開削されるまでは、伝法川河口が大坂湾の玄関口でした。ここから、伝法船で江戸へ伊丹の酒が運ばれ、その上に醤油や酢・塗り物・紙・木綿・金物・畳表などを積んで運びました。伝法は、廻船業の交易基地として大坂の繁栄を支えました。安治川の開通で、海運の拠点は川口に移りました。また、新淀川の開削で伝法川は河川として

の役割をなくし昭和28年(1953)に埋め立てられて消滅しました。

⑥正蓮寺

寛永2年(1625)正蓮日實が建立したといわれています。かつては七堂伽藍の大寺院だったのですが、火災や地震で縮小しましたが、現本堂は明治7年(1874)の建立です。享保のころから続く8月26日の川施餓鬼はとても有名で、「暑い暑い天神祭、暑い暑いも施餓鬼まで」といわれたものです。



阪神伝法駅

